

真田の家

所在地 上田市
構造 木造2階建
延べ面積 180.95 m²
応募者 news設計室 丸山 和男

作品のコンセプト

40年の長い海外生活を終えて、実家のある信州にUターン。自然豊かな里山の環境の中で、庭を楽しむ、生活を楽しむ為の終の棲家。計画は庭のあり方と周辺環境との繋がり方を検討することから始まった。敷地は実家の隣で、実家との繋がりも大切にしたい。住まいと庭、庭と周辺環境が繋がる事で人と人が繋がりが、住まい手も住まいも地域に溶け込むように考えた。



隣接する実家の庭から続く小道と雑木林をイメージした庭



庭を切り取る上部窓と通風のための下部窓



デッキを通じて緩やかに繋がる庭と住まい
・四季を通じて変化する庭は、道いく人とのコミュニケーションを豊かにし、縁側のようなリビングデッキは語らいの場として活用



明確にプライベート空間と分けたゲストルーム（2F）



居間の延長でのようなリビングデッキ

信州での「住まい方」 応募者の思い

長い時間をかけて育まれた日本の木造建築の良さを、現代の技術と融合しながら引き継いでいきたい。身近にある豊かな森林資源を

使い、職人の技術を継承していく事が当たり前になるよう家づくりを続け、住まいに対する人々の意識を変えていきたい。

審査員講評

建設地は自然豊かな里山にあり、庭を中心に配置されたプライベート空間は、食堂・居間・寝室が並んでおり四季折々変化する広葉樹をどこからでも楽しむことが出来る。さらに居間と寝室との間を板壁で仕切ることにより、家族同士のプライベート空間も確立されていることや、庭を見る目線はFIXとし、上下に開口（通風）窓を設けるなど細かい工夫は、平面計画とともによく考えられている。又、木の使い方も柱目で統一され、木に対するこだわりが感

じさせられる。
給湯・暖房システムは、パッシブソーラーの弱点をボイラー併用で補うなどの省エネルギー化や、CO₂削減に寄与しており、この考えは大きく評価できる。
設計者はもとより、施主の住宅に対する強い情熱が感じられる作品である。
(小河 節郎)